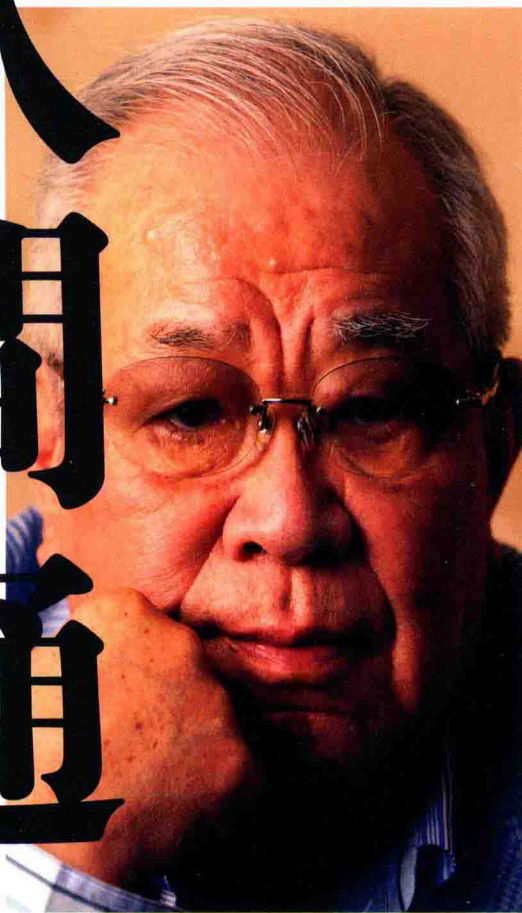


人間通

Nomura Katsuya-no
NINGENTSU

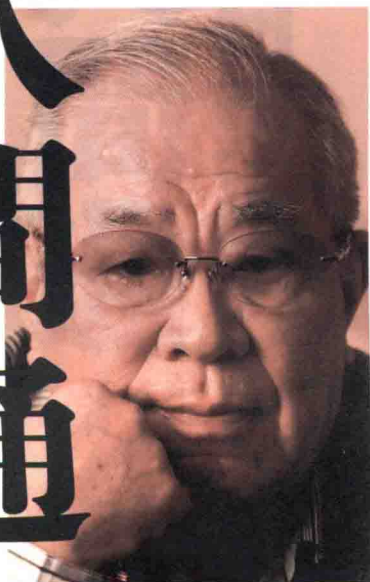
野村克也の



野村克也

人間通

Nomura Katsuya-no
NINGENTSU



野村克也の

野村克也

海竜社

【著者紹介】

野村克也 (のむら かつや)

1935年生まれ。現役時代は南海ホークス、ロッテオリオンズ、西武ライオンズで活躍。日本プロ野球史上における王、長嶋と並ぶ野球人。通算試合出場数は歴代1位。通算安打数および通算本塁打数は歴代2位。引退後はヤクルトスワローズ、阪神タイガース、アマチュア野球のシダックス、東北楽天ゴールデンイーグルスの監督を務めた。現在は解説者として活躍。データを基にした「野村スコープ」を駆使し、投手の配球をほぼ100%的中させることは有名。

主な著書に『野村ノート』（小学館）、『私が野球から学んだ人生で最も大切な101のこと』『この一球』（以上、海竜社）など、多数ある。

野村克也の人間通

二〇一四年十月二十九日 第一刷発行

著者 のむら かつや 野村克也

発行者 のむら かつや 下村のぶ子

発行所 のむら かつや 株式会社 海竜社

東京都中央区明石町十一の十五 〒一〇四—〇〇四四

電話 (〇三)三五四二—九六七— (代表)

FAX (〇三)三五四一—五四八四

郵便振替口座 〇〇—一〇—九—四四八八六

ホームページ <http://www.kairyushaco.jp>

本文組版 株式会社キヤップス

印刷・製本所 シナノ印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えます。

©2014. Katsuya Nomura. Printed in Japan

ISBN978-4-7593-1399-4 C0095

はじめに――

野球という縁に生かされて

2

第一章 「人」に通ず

1	自分	12
2	知る	14
3	自己顕示欲	16
4	認められたい	18
5	個性	20
6	評価	22
7	ガッツ	24
8	負けず嫌い	26

9	劣等感	28
10	ハングリー精神	30
11	欲	32
12	無心	34
13	プロフェッショナル	37
14	プライド	40
15	幸・不幸	42
16	知識欲	44
17	おしゃれ	46
18	アカ抜ける	48
19	健康	50
20	長生き	52

第二章

「成長」に通ず

35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
しがみつ	理想と現実	短所	恐怖心	勇氣	不器用	一芸	練習	努力	凡人	天性	意識	人間的成長	変化	感性
86	84	82	80	77	74	72	70	68	66	64	62	60	58	56

第三章

「仕事」に通ず

49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36
駆け引き	苦勞	仕事	マネ	イメージ	運	チャンス	本質	観る	臆病	失敗	妥協	ゴールライン	あきらめない
121	118	116	114	112	110	107	104	102	98	96	94	92	89

第四章

「言葉」に通ず

63	62	61		60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50
問題意識	思考	信頼		恋愛	男と女	相対関係	原理原則	状況判断	ヤマ	データ	システム	苦肉の策	術策	弱者
154	152	150		146	144	142	140	138	136	133	130	128	126	124

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
人材	悔い	引き際	引退	即戦力	将来性	読書	言葉	スランプ	裏方	ぼやく	完璧主義	プロセス	基礎	気づかせる	引き出す	指導
190	188	186	184	182	180	178	175	172	170	168	166	164	162	160	158	156

第五章 「組織」に通ず

95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
派閥	油断	決着	新陳代謝	ベテラン	適材適所	脇役	決断力	資質	目的意識	チームワーク	プレー	発展	自己犠牲	リーダー
226	224	222		217	214	212	210	208	206		202	200	197	194
			220							204				

100	99	98	97	96
捕手の人間	性格	自己中心	ケチ	甘やかし
	235		230	
		232		228
238				

野村克也の
人間通

はじめに——野球という縁に生かされて

野球と人生は不即不離

二月五日が何の日か、ご存じの方はそう多くはないだろう。この日は、「プロ野球の日」と定められている。

一九三六年（昭和11年）二月五日、日本のプロ野球は、巨人、大東京、東京セネターズ、名古屋、名古屋金鯱、大阪タイガース、阪急の七球団が参加する「日本職業野球連盟」として産声をあげた。以来、第二次世界大戦での一年余の中断をはさみ、今日まで八〇年近い歴史を積み重ねてきた。

これまで、どれだけの数の人間が選手として、あるいは監督や指導者として日本のプロ野球に関わってきたか、詳細なことはわからないが、私もその末席に列つらなる者の一人であ

る。

私が生まれたのはプロ野球発足の前年だが（年度でいえば、同年度）、それだけに野球には不思議な縁を感じている。一九五四年に契約金ゼロのテスト生として入団し、二七年間、生涯一捕手としてプロ野球の現役生活を送った。その間、南海ホークスに二四年（うち八年間は監督兼任）、ロッテオリオンズに一年、西武ライオンズに二年、お世話になった。選手としてだけでなく、ヤクルトスワローズで九年、阪神タイガースで三年、楽天イーグルスで四年間、監督をやらせていただいた。

それだけではない。私は、社会人野球や少年野球のチームの監督も経験している。また、バックネット裏に座り、テレビやラジオの野球中継の解説者も務めたし、評論家として、スポーツ新聞や雑誌などに野球に関する記事を書いてきた。

手前味噌に聞こえるかもしれないが、私ほど野球と深く関わった人間はいないと秘かに自負しているし、私ほど野球によって生かされてきた人間も少ないのではないかと思っている。野球のおかげで衣食住が満たされ、幸せな人生を送らせてもらっているわけだから、何か恩返しをしないと、罰が当たるのではないかという思いもある。

南海ホークスに入団した年から数えれば、六〇年間も何らかの形で野球の世界に関わっていることになるのだが、その間、私は野球という窓を通して、人間や社会というものを

見つめてきた。数え切れないほど多くのことを野球から学ばせてもらったし、それが私を成長させる糧となってきた。

野球に生かされてきた私の、野球への恩返し

煎じ詰めていえば、野球と人生は不即不離の関係にあると、私は思っている。野球の原理原則やセオリーと呼ばれているものは、人生のさまざまな局面においても適応できるし、人生において人が考えなければならないことは、野球においても追究すべき大切なテーマとなる。

これまで数多くのプロ野球選手や関係者をはじめ、大勢の人間と接する機会を持ってきたが、伸びる人間は、野球選手であれ、一般人であれ、共通している。感性が鋭く、問題意識や明確な目標を持ち、努力することをいとわない人間である。自分が何のために生きているのかに自覚的で、生かされていることに對する感謝の念を忘れない人間である。そんな人間は、失敗したり、つまずいたりしても、ちよつとしたことでヒントを得たり、自分なりに工夫して、そこから力強く立ち直っていく。

人生は、ときとして過酷な試練を私たちに与える。そもそも人生において、自分の思い通りになることなど、そうそうあるものではない。理想が高ければ高いほど、そこには現

実という壁が立ちはだかる。前に進もうと思えば、足を取られかねないぬかるみが横たわっている。しかし、その前で逡巡しているだけでは、問題は解決しないし、人は成長することができない。勇氣を持つて進んだものだけが、その人間にとってのかけがえのない宝を手に入れることができるのだ。

この本では、六〇年にわたる長い野球人生の中で、私なりにつかみとった人間に関する真実を書こうと思った。それが、少しでも、生きることしんじに真摯しんしに向き合っているがゆえに悩みや苦しみを抱えた人たちの指針や清涼剤になれば、これに勝る幸せはない。それこそが、野球という縁に生かされてきた私が恩返しできる数少ないことだと思っている。

平成二六年一〇月八日

野村 克也

はじめに――

野球という縁に生かされて

2

第一章 「人」に通ず

1	自分	12
2	知る	14
3	自己顕示欲	16
4	認められたい	18
5	個性	20
6	評価	22
7	ガッツ	24
8	負けず嫌い	26

9	劣等感	28
10	ハングリー精神	30
11	欲	32
12	無心	34
13	プロフェッショナル	37
14	プライド	40
15	幸・不幸	42
16	知識欲	44
17	おしゃれ	46
18	アカ抜ける	48
19	健康	50
20	長生き	52

第二章

「成長」に通ず

35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
しがみつ	理想と現実	短所	恐怖心	勇氣	不器用	一芸	練習	努力	凡人	天性	意識	人間的成長	変化	感性
86	84	82	80	77	74	72	70	68	66	64	62	60	58	56

第三章

「仕事」に通ず

49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36
駆け引き	苦勞	仕事	マネ	イメージ	運	チャンス	本質	観る	臆病	失敗	妥協	ゴールライン	あきらめない
121	118	116	114	112	110	107	104	102	98	96	94	92	89

第四章

「言葉」に通ず

63	62	61		60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50
問題意識	思考	信頼		恋愛	男と女	相対関係	原理原則	状況判断	ヤマ	データ	システム	苦肉の策	術策	弱者
154	152	150		146	144	142	140	138	136	133	130	128	126	124

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
人材	悔い	引き際	引退	即戦力	将来性	読書	言葉	スランプ	裏方	ぼやく	完璧主義	プロセス	基礎	気づかせる	引き出す	指導
190	188	186	184	182	180	178	175	172	170	168	166	164	162	160	158	156

第五章 「組織」に通ず

95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
派閥	油断	決着	新陳代謝	ベテラン	適材適所	脇役	決断力	資質	目的意識	チームワーク	プレー	発展	自己犠牲	リーダー
226	224	222		217	214	212	210	208	206		202	200	197	194
			220							204				

100	99	98	97	96
捕手の人間	性格	自己中心	ケチ	甘やかし
	235		230	
		232		228
238				

編輯協力 大湊一昭
写真 鷹野 晃
装幀 川上成夫